

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅱ 呼吸器疾患患者の看護		長井 安代		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(20)	教室 看護実習室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	呼吸器疾患患者の看護について学ぶ。				
到達目標	①呼吸器疾患患者に特徴的な症状に対する看護を理解できる。 ②呼吸器疾患患者の検査・治療処置における看護を理解する。 ③呼吸器機能障害のある患者のアセスメントを理解することができる。 ④気管内吸引・口鼻腔吸引の技術が習得できる。				
事前学習	呼吸器の解剖生理を復習しておく。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	症状に対する看護 咳・痰・胸痛・呼吸困難 Co ₂ ナルコーシス
2	検査を受ける患者の看護 気管支鏡検査・肺組織の生検 胸腔ドレナージ 気胸 胸水
3	治療・処置を受ける患者の看護 吸入療法 酸素療法 酸素吸入器具 の選択、酸素ボンベ使用方法、残量計算
4	疾患を持つ患者の看護 肺炎 肺結核
5	疾患を持つ患者の看護 気管支喘息 慢性閉塞性疾患 拘束性換気障害、 肺癌
6	人工呼吸器装着患者の看護 侵襲的陽圧換気、非侵襲的陽圧換気 気管切開を受ける患者の看護
7	気管内吸引・口鼻腔吸引 肺理学療法 体位ドレナージ・スクイーピング 催咳法・ハッフイング 呼吸訓練
8	演習 気管内吸引 口鼻腔吸引
9	
10	まとめ・終講試験
履修上の要件	解剖生理学Ⅱ呼吸器を履修していることが望ましい。
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学 呼吸器 看護技術プラクティス
成績評価の方法	筆記試験
備考	循環器疾患患者の看護と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅱ・ 循環器疾患患者の看護		池田 恵子		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	教室	後 期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	循環器疾患患者の看護について学ぶ				
到達目標	①循環機能について理解できる ②循環機能障害によって起こる症状がわかる ③循環機能障害のある患者のアセスメントがわかる ④循環機能障害のある患者の急性期・回復期・慢性期の看護がわかる ⑤主な検査・治療時の看護がわかる				
事前学習	心臓・血管の解剖生理、バイタルサインについて理解しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	1. 循環機能とは？ 心臓の解剖、刺激伝導系、冠動脈の確認 2. 血圧異常患者の看護：高血圧患者の看護と生活指導、薬物療法
2	3. 虚血性心疾患患者の看護 狭心症・心筋梗塞患者の急性期・回復期・慢性期の看護 心臓カテーテル検査・P C I 治療を受ける患者の看護 心臓リハビリテーション
3	4. 心不全患者の看護 急性心不全・慢性心不全・左心不全・右心不全 急性期の看護、慢性期の看護とセルフケアの自立への援助
4	5. 不整脈患者の看護 危険な不整脈、ペースメーカー適応の不整脈 ペースメーカー植え込み術を受ける患者の看護 6. 動脈・静脈疾患患者の看護
5	終講試験
履修上の要件	循環器疾患・治療・検査については疾病と治療Ⅱで学ぶ 呼吸器疾患患者の看護とあわせて1単位とする。
テキスト、教材、 参考書	医学書院 系統看護学講座 成人看護学3 循環器
成績評価の方法	筆記試験
備考	呼吸器疾患患者の看護と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅲ・ 消化器疾患患者の看護		池田 恵子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	1 年次教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	消化器疾患患者の看護を学ぶ				
到達目標	消化器疾患の症状が理解できる 主な消化器疾患の検査・治療・看護について理解できる				
事前学習	消化器の解剖生理を理解しておく 生化学、薬理学で検査データの意味や薬物の作用、副作用を復習しておく。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	消化器疾患患者の特徴 A. 症状に対する看護 嚥下困難、胸やけ、嘔吐、腹痛、吐血、下血、下痢、便秘、 腹部膨満、食欲不振、黄疸、肝性脳症
2	D・疾患を持つ患者の看護 食道癌：好発部位、症状、治療（手術療法、放射線療法） 胃・十二指腸潰瘍：症状、治療、生活指導 胃がん：手術療法、術後合併症、ダンピング症候群
3	大腸癌：ストーマ造設術を受ける患者の看護 イレウス：症状、イレウスチューブ
4	胆石胆嚢炎：腹腔鏡下胆嚢摘出術、術後合併症 肝炎：B型肝炎、肝臓癌：食道静脈瘤・肝性脳症、膵臓癌
5	B. 検査を受ける患者の看護 胃カメラ、大腸鏡、ERCP、肝生検、PTCD C. 治療、処置を受ける患者の看護 薬物療法、化学療法、食事療法
	※健康危機状態の看護とあわせて筆記試験を行う
履修上の要件	健康危機状態の看護および看護過程とあわせて1単位とする。
テキスト、教材、 参考書	医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学5 消化器
成績評価の方法	筆記試験
備考	健康危機状況における看護及び健康危機の看護過程と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅲ・ 健康危機状況における看護		池田 恵子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(10)	教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	クリティカルケア、周手術期の看護				
到達目標	生命の危機状態が理解できる。 身体侵襲と生体反応が理解できる。 術前の看護、術中の看護、術後の看護が理解できる。				
事前学習	消化器疾患の治療、身体侵襲と生体反応				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	クリティカルケアとは？ ・クリティカルケア対象患者と管理別分類、慢性疾患の急性増悪 ・身体侵襲と生体反応：ムーアの分類 ・危機理論
2	手術を受ける患者の看護 術前の看護：インフォームドコンセントと看護師の役割、術前オリ
3	術中の看護：手術室看護 術後の看護：術後合併症、回復を促す看護、創傷の治癒過程
4	周手術期の特徴 脳外科手術、心臓手術、呼吸器の手術、大血管の手術、高齢者の手術
5	救急看護 救急看護の特徴、チーム医療、家族ケア
6	終講試験
履修上の要件	消化器疾患患者の看護、健康の危機状態にある患者の看護過程とあわせて1単位とする。
テキスト、教材、 参考書	医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学5 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論
成績評価の方法	筆記試験
備考	消化器疾患患者の看護及び健康危機の看護過程と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅲ・ 健康危機の看護過程		池田 恵子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室	前 期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	急性期（周手術期）の看護過程				
到達目標	手術を受ける患者の情報が整理できる。 情報を関連させ、手術を受ける患者の全体像が描ける。 アセスメントができ、術前・術後の患者の看護問題と必要な看護が考えられる				
事前学習	消化器疾患患者の看護、全身麻酔、手術侵襲、術後合併症				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	※手術を受ける患者(ペーパーペイシェント)の看護過程を展開する。 1. 情報の読み取り 患者の基礎情報を「基礎情報用紙」に整理する。 患者の疾患に対する思いなどを読み取る。 2. 基本的欲求の分類と読み取り 「基本的欲求」の用紙に情報を整理する。 必要な情報が読み取れる 情報を分析し、充足・未充足を判断する
2	3. 全体像 情報を関連させ全体像を描く(板書にて説明)
3	4. アセスメントと看護問題 情報をもとにアセスメントし、術前の看護問題、術後の看護問題を抽出、優先順位を判断する。(文献を参考にする)
4	5. 看護計画立案 患者に必要な術前・術後の看護計画を立案する。(文献を参考にする)
履修上の要件	消化器疾患患者の看護、健康危機状態の患者の看護とあわせて1単位とする。
テキスト、教材、 参考書	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 疾患別看護過程の展開 系統看護学講座 成人看護学 消化器 今日の治療薬 わかる検査値とケアのポイント
成績評価の方法	看護過程用紙・レポートの提出、および内容によって点数化し評価する。
備考	消化器疾患患者の看護及び健康危機状況における看護と併せて 1 単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅳ 内分泌・代謝疾患		山城 歩		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	内分泌と代謝疾患患者の看護と慢性期患者の看護について学ぶ。				
到達目標	内分泌と代謝疾患患者の看護、慢性期患者の看護について理解できる。				
事前学習	検査（ホルモン血中濃度測定、ホルモン負荷試験）、内分泌器官の構造と機能、ホルモンの機能を復習しておく。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	内分泌疾患の検査を受ける患者の看護 (ホルモン血中濃度測定、ホルモン負荷試験) 副腎疾患患者の看護
2	甲状腺疾患患者の看護 (バセドウ病、甲状腺機能低下症、甲状腺切除術を受ける患者)
3	代謝疾患患者の看護 (脂質異常症、肥満、尿酸代謝異常)
4	糖尿病患者の看護 (疾患の特徴、患者の特徴、看護の実際)
5	まとめ、終講試験
履修上の要件	栄養学、解剖生理学、病理学、各疾患、成人看護学概論の知識が必要です
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	腎泌尿器、女性生殖器と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅳ 腎・泌尿器科		中窪 美穂		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	腎泌尿器疾患患者の看護を学び、自己管理できる援助について学習する				
到達目標	腎泌尿器疾患患者の看護を理解することができる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	患者の特徴と看護の役割、腎泌尿器の構造と機能、症状とその病態生理
2	検査と治療の看護、尿路・性器の感染症、尿路結石、尿路・性器の腫瘍疾患の看護
3	腎不全・ネフローゼ症候群・妊娠高血圧症候群の患者の看護
4	糖尿病性腎症から透析導入となった患者の看護
5	まとめ、終講試験
履修上の要件	解剖生理学、病理学、生化学、腎泌尿器疾患、感染予防の知識が必要
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	内分泌、女性生殖器と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅳ 女性生殖器・感覚器		一瀬 いつ子・糸 ふじ代		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	講義				
到達目標	女性生殖器疾患をもつ患者の特徴・看護が理解できる 感覚器疾患患者の看護が理解できる				
事前学習	女性生殖器の解剖生理を復習する 皮膚：熱傷 帯状疱疹 スキンケア 眼：白内障 緑内障 糖尿病性網膜症 耳鼻咽喉：難聴 メニエール病 慢性副鼻腔炎 喉頭がん 歯・口腔：口腔ケア				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	＜女性生殖器＞女性生殖器の解剖生理 女性ホルモンの働き 女性生殖器疾患を持つ患者の心理・看護者の役割
2	治療・処置・検査を受ける患者の看護 女性生殖器疾患の看護・リハビリテーション
3	終講試験
1	＜感覚器＞皮膚科疾患患者の看護 眼疾患患者の看護
2	耳鼻咽喉疾患患者の看護 歯・口腔疾患患者の看護
3	終講試験
履修上の要件	解剖生理学（皮膚 眼 耳鼻咽喉 歯口腔）、病理学、感覚器疾患、女性生殖器疾患を履修していることが望ましい。
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学Ⅱ 皮膚 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学Ⅱ 眼 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学Ⅱ 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学Ⅱ 歯・口腔 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	内分泌、腎泌尿器と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅴ 血液・アレルギー・膠原病・感染		林 なおみ		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	血液・膠原病・アレルギー・感染症の患者の看護についてグループワークする。				
到達目標	血液、膠原病、アレルギー、感染症の患者の特徴と看護援助を理解できる。				
事前学習	SLE、関節リウマチ、アレルギー、HIV の看護援助を調べる。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	膠原病疾患患者の看護 (SLE、関節リウマチと主な症状に対する看護)
2	アレルギー疾患患者の看護 (アナフィラキシーショックと主な症状に対する看護)
3	感染症疾患患者の看護 (HIV、AIDS、敗血症と主な症状に対する看護)
4	血液疾患患者の看護 (白血病と主な症状、検査、治療に対する看護)
5	まとめ、終講試験
履修上の要件	解剖生理学、病理学、微生物、生化学、各疾患の知識が必要とされます。
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 4 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	緩和ケア、終末期の看護過程と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅴ 緩和ケアの概念		元田 陽子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	疼痛緩和へのアプローチと生きることへの支援、グリーフケアについて学習する。				
到達目標	緩和ケアを必要とする患者の看護、患者・家族の悲嘆を理解することができる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	緩和ケアの歴史、定義、全人的苦痛、チームアプローチ、癌患者の心理過程
2	癌性疼痛の理解、薬物療法、評価方法、看護、日常生活援助方法
3	食えることへの支援、全身倦怠感のケア、不眠の援助
4	存在を支える看護、スピリチュアルケア
5	まとめ、終講試験
履修上の要件	薬理学・栄養学・解剖生理学・基礎看護技術・在宅看護論の知識が必要
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 1 成人看護総論 医学書院 系統看護学講座統合分野 在宅看護論 医学書院 Q&A でよくわかるがん性疼痛ケア 照林社
成績評価の方法	筆記試験
備考	血液、終末期の看護過程と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅴ 終末期患者の看護過程		林 なおみ		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(10)	教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	終末期の患者と家族、苦痛に対する援助、死にゆく人に向き合う姿勢				
到達目標	終末期の患者と家族を理解し、その人らしく生き抜くことを支える援助を考える				
事前学習	乳がんの病態生理、治療、症状に対する看護、エンド・オブ・ライフケア、臨死期に対する援助を調べる。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	乳がん患者の事例について対象理解する (グループワーク)
2	トータルペインと家族への援助を考える (グループワーク)
3	その人らしく生き抜くこと、意思決定と治療の選択に対する支援
4	臨死期の援助、死亡後の家族に対する援助について
5	死にゆく人に向き合う姿勢、グループワークの発表
履修上の要件	薬理学、栄養学、解剖生理学、在宅看護論、乳がんに対する知識が必要
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 1 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 Q&A よくわかるがん性疼痛ケア 照林社
成績評価の方法	小テスト、レポート、グループワークの評価表に基づく
備考	血液・緩和ケアと併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学Ⅰ 患者理解と疾患		長井 安代		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(16)	2年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	高齢者の加齢に伴う身体機能・認知機能の変化 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護				
到達目標	高齢者の健康障害の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護について理解する。				
事前学習	授業の該当内容について教科書				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	高齢者のアセスメント 身体の高齢変化とアセスメント
2	高齢者のアセスメント 身体の高齢変化とアセスメント
3	高齢者のよくみられる身体症状とアセスメント 発熱・疼痛・搔痒
4	高齢者のよくみられる身体症状とアセスメント 脱水・嘔吐・浮腫
5	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア 検査と看護ケア 栄養ケアマネジメント
6	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア 薬物療法と看護ケア 手術を受ける高齢者の看護
7	疾患をもつ高齢者への看護ケア パーキンソン・インフルエンザ・肺炎
8	疾患をもつ高齢者への看護ケア 骨粗鬆症、骨折

履修上の要件	解剖生理学を履修していることが望ましい。
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	日常生活の援助とあわせて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学Ⅰ 日常生活の援助 認知機能障害のある 高齢者の看護（認知症）		中島 久代		2年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	（14）	2年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	座る・立つという基本動作を基盤とする排泄・清潔の生活行為とそれらが繰り返し展開される生活リズム、生活を円滑に進めるために不可欠なコミュニケーションについて学ぶ 授業の中で認知症高齢者を尊重した関わりが出来るように認知症の知識、コミュニケーション技術、日常生活援助等を学ぶ				
到達目標	高齢者の生活機能を整え、人間として生きる喜びを獲得できるように健康面から支援する 高齢者の日常生活援助を通してADLの維持向上、QOLを保つ 認知症高齢者の看護を理解する				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	高齢者の生活機能を整える ～ 日常生活を支える基本動作 ～
2	高齢者の生活機能を整える ～ 排泄 ～
3	高齢者の生活機能を整える ～ 清潔 ～
4	高齢者の生活機能を整える ～ 生活リズム・コミュニケーション ～
5	認知症の理解
6	認知症の看護（介護）ケア
7	まとめ・終講試験
履修上の要件	解剖生理、老年看護概論などを終了している
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	患者理解とあわせて1単位とする

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学Ⅱ		脇田 真由美		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室 実習室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	病院・施設における看護ケア 生活・療養の場における看護 介護予防 家族の健康と家族への援助（支援） 摂食・嚥下障害の看護、褥瘡の看護、健康障害をもつ高齢者の看護過程				
到達目標	保健・医療・福祉制度の変革が老年看護に与える影響と看護師の役割と、 病院・施設・地域における老年看護を理解する。また、老年看護を総合的に 理解し健康障害をもつ高齢者の看護過程が展開できる。				
事前学習	老年看護学概論「介護保険」の復習 摂食・嚥下のメカニズム				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	老年期・介護予防とヘルスプロモーション 介護保険制度
2	家族による介護と介護家族への援助介護休業制度 多職種連携
3	リハビリテーションを必要とする高齢者（経過別） 退院支援・訪問看護
4	状況設定問題の読み解き～なぜ介護殺人は起きるのか～（GW）
5・6	老年看護技術 摂食・嚥下障害のある患者の看護、褥瘡のある患者の看護
7	看護過程 事例紹介（脳血管障害患者、パーキンソン病患者）情報の分析
8	看護過程 14項目の情報の分析
9	看護過程 全体像の把握
10	看護過程 アセスメント・看護問題の表現
11・12	看護過程 計画・立案・目標の表現・解決策・評価の方法
13	老年看護技術 演習 おむつ交換・アイスマッサージ・嚥下体操・嚥下訓練
14	
15	まとめ・終講試験
履修上の要件	老年看護学概論を履修していることが望ましい。
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 新体系看護学全書 老年看護学概論・老年保健 メヂカルフレンド社
成績評価の方法	筆記試験、看護過程提出
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学Ⅰ (健康レベルに応じた看護)		重 しほ子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(15)	2年教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	子どもの健康問題と看護(慢性期・急性期・周手術期・終末期の看護) 子どもの状況と看護(入院中・外来・在宅・災害時の看護)				
到達目標	・健康問題・障害が子どもと家族に与える、心理社会的影響と反応を発達段階に応じて理解する				
事前学習	乳幼児期・学童期の成長発達について理解しておく プレパレーションについてレポートする				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	病気・障害が子どもと家族に与える影響 病気や入院に伴う子どもの反応について理解する(各発達段階の特徴やストレスと対処行動・家族の特徴とアセスメント)
2	入院中看護 役割 心理的準備 治療における支援(意志決定・セルフケア) 外来看護事例活用・健康診査・育児相談・感染症対策・トリアージ・不安軽減
3	在宅看護 特徴事例活用 医療的ケア レスパイトケア 訪問看護などの社会資源の活用・災害時看護 避難所生活の対応 PTSD 心のケア
4	慢性期看護 特徴生活の変化 慢性特定疾患 学習支援 地域との連携 急性期の看護 疾患の特徴と治療 救命処置 意識レベル 誤飲誤嚥
5	周手術期看護 時期 計画・緊急・日帰り手術 安全安楽 アセスメント 終末期の看護 死の概念 反応 緩和ケア 死を看取る家族の反応
6	プレパレーションの目的意義の理解 説明と同意 家族の準備状態の把握
7	プレパレーションの実際(Gワーク:検査処置を受ける子ども家族の支援)
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	小児看護学Ⅰ(症状)とあわせて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学Ⅰ（症状）		長井 安代		2年生	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	(15)	2年教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	健康障害のある子どもに出現しやすい症状と看護を学ぶ。				
到達目標	健康障害のある子どもに出現しやすい症状と看護を理解できる。				
事前学習	子どものアセスメントについて復習する。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	症状を示す子どもの看護 不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・チアノーゼ
2	症状を示す子どもの看護 ショック・意識障害
3	症状を示す子どもの看護 けいれん・発熱
4	症状を示す子どもの看護 嘔吐・下痢・便秘・脱水
5	症状を示す子どもの看護 浮腫
6	症状を示す子どもの看護 出血・貧血
7	症状を示す子どもの看護 発疹・黄疸
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	小児看護学Ⅰ(健康レベルに応じた看護)とあわせて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学Ⅱ (治療・処置を受ける小児の看護)		重 しほ子・大山 周子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	2 年教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	子どもと家族への看護 (検査・処置に伴う技術と看護 プレパレーションと看護) 障害 (とらえ方・特徴・社会的支援) 虐待と看護 疾患と看護				
到達目標	健康問題・障害が子どもと家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する 小児期に見られる主な健康問題・障害とその看護について理解する				
事前学習	輸液・吸入についてレポートする				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	検査・処置を受ける子どもと家族の看護 総論 (子どもにとっての検査・処置体験と看護の実際) 薬物動態と薬用量の決定
2	技術と看護 (注射 与薬 小児の輸液療法)
3	技術と看護 (採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺・抑制・罨法・浣腸)
4	技術と看護 (酸素療法・吸入・吸引・経管栄養・救命処置)
5	技術と看護の演習 (輸液療法中のシーネ交換・吸入療法の実際)
6	発達障害の特性と対応
7	疾患をもった子どもの看護 (ダウン症・ターナー症候群)
8	疾患をもった子どもの看護 (糖尿病・川崎病)
9	感染症をもった子どもの看護・アレルギー疾患をもつ子どもの看護
10	消化器疾患をもつ子どもの看護 (腸重積など)
11	呼吸器疾患をもつ子どもの看護 (気管支喘息・肺炎など)
12	血液疾患をもつ子どもの看護 (白血病) 神経・筋疾患をもつ子どもの看護
13	泌尿生殖器疾患をもつ小児の看護 代謝性疾患をもつ小児の看護
14	運動器疾患をもつ小児の看護 事故外傷と看護
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	系統看護学講座 Ⅱ 小児看護学概論・総論 医学書院 系統看護学講座 Ⅱ 小児看護学概論・総論 医学書院
テキスト、教材、参考書	視聴覚教材
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学Ⅲ (小児看護における技術)		重 しほ子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (15)	2 年教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	技術 看護過程				
到達目標	小児看護に必要な看護技術を習得する 小児期に必要な看護過程の方法を学ぶ				
事前学習	事例疾患のレポート 小児各期の成長発達について事前学習				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	子どものアセスメント・必要な技術（身体計測・バイタルサイン測定）
2	子どもの身体アセスメント一般状態・眼・耳鼻口腔・呼吸・心臓血管系腹部・筋骨格など
3	小児における遊びと学習（各発達段階における遊びと学習の目的） 小児看護過程演習（看護論を用いた問題思考過程の展開方法 子どもと家族の看護）
4	小児看護過程演習（乳児期・幼児期・学童期・思春期の成長発達と疾患について） 小児看護過程演習（情報収集と情報の分析・全体像・関連図） 事例：川崎病の患児と家族の看護 ネフローゼ症候群の患児家族の看護 気管支喘息の患児と家族の看護
5	小児看護過程演習（看護問題の解釈・判断・アセスメント・目標設定）
6	小児看護過程演習（計画立案・評価方法）
7	小児看護過程演習（発表・ディスカッション・まとめ・評価）
8	まとめ・終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 Ⅱ 小児看護学概論・総論 医学書院 系統看護学講座 Ⅱ 小児看護学各論 医学書院
成績評価の方法	筆記試験 看護過程 レポート
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護学Ⅰ		加藤 美紀江		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (45)	2年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、助産師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期の生理と看護、異常時の看護				
到達目標	妊婦、産婦、褥婦、新生児の生理的变化を理解し、看護及び保健指導を行う能力を養う。				
事前学習	授業内容にそってテキストを読む。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	妊娠期の身体的特性、妊娠の生理、胎児の発育と生理
2	母体の生理的变化・・・生殖器の変化、妊娠による全身的变化
3	妊娠期の心理・社会的特性
4	妊婦と胎児のアセスメント・・・妊娠の診断、妊娠時期、胎児発育の診断
5	胎児の健康状態の診断、アセスメントに必要な基礎的情報
6	マイナートラブルのアセスメント、日常生活に関するアセスメント
7	妊婦と家族の看護・・・妊娠中の食事摂取基準、保健相談の実際（つわり）
8	（妊娠高血圧症候群）（喫煙）（マイナートラブル）
9	ハイリスク妊婦の看護・・・高年、若年妊婦、肥満、
10	合併症のある妊婦の看護・・・糖尿病、妊娠高血圧症候群、子宮筋腫、双胎
11	分娩の3要素、胎児と子宮及び骨盤との関係、分娩の機序
12	分娩の経過・・・分娩進行と身体的変化、産痛、産婦の心理
13	産婦・胎児・家族のアセスメント・・・健康状態、心理社会面のアセスメント
14	分娩期の看護の実際、異常のある産婦の看護・・・破水、胎児機能不全、
15	帝王切開術後、弛緩出血、頸管裂傷、会陰裂傷、
16	妊娠、分娩のまとめ、中間試験（妊娠、分娩）
17	新生児の生理、新生児の機能
18	新生児のアセスメント・・・新生児の診断、新生児の健康状態のアセスメント
19	新生児の異常と看護・・・新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児
20	高ビリルビン血症、核黄疸、光線療法、ビタミンK欠乏性出血症
21	産褥経過・・・身体的変化、心理的变化
22	褥婦のアセスメント、褥婦と家族の看護、異常のある褥婦の看護
23	まとめ（新生児、産褥）、終講試験（新生児、産褥）
履修上の要件	母性看護学概論の終講
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学各論医学書院、病気がみえる・産科 vol10
成績評価の方法	筆記試験（中間試験、終講試験）
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護学Ⅱ (母性看護技術・看護過程)		一瀬 いづ子		2 年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室 実習室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、助産師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的変化と看護、保健指導 レオポルド触診法、NST、母乳育児支援、ウェルネス志向				
到達目標	妊娠・分娩・産褥期の生理的変化を理解し、看護及び保健指導を理解する。新生児が胎外生活に適応し、成長発達するために必要な看護を理解する。褥婦・新生児のウェルネス看護過程の展開ができる。妊産褥婦新生児の正常からの逸脱状態のアセスメント、ケアについて理解できる。				
事前学習	ウェルネス志向の看護過程、母性看護学Ⅰの復習				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	ウェルネス志向の看護過程（事例提示）
2	妊産褥婦及び新生児のアセスメントと看護
3・4	妊産褥婦・新生児の看護過程 ― アセスメント ―
5・6	妊産褥婦・新生児の看護過程 ― 全体像 ―
7・8	妊産褥婦・新生児の看護過程 ― 計画立案 ―
9・10	妊産褥婦・新生児の看護過程 ― 事例発表 ―
11	母性看護技術演習
12	(妊婦の計測診、レオポルド触診法、児心音聴取、NST) (褥婦の計測診、新生児の抱き方、授乳、新生児のバイタル測定)
13	沐浴・着衣（演習・デモンストレーション）
14	沐浴実施
15	終講テスト
履修上の要件	母性看護学Ⅰ及びハイリスク生理と関連づけて学習する。 解剖生理・女性生殖器も学習しておく。
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版
成績評価の方法	筆記試験 レポート
備考	沐浴時の技術はチェックリスト

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学概論		濱田 秀子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・GW	1 (30)	2 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	心的装置、対人関係、コンサルテーション、精神保健医療福祉の法制度・歴史				
到達目標	精神看護学の位置づけと精神看護の目的、対象、看護の役割について理解する。 また、対象に応じた心の健康の保持・増進への看護の重要性と方法について学ぶ。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	精神に障害のある人の理解 ～「幻聴妄想かるた」を使った GW
2	DVD :『精神』（ドキュメンタリー）（前半）精神科診療所の外来患者
3	DVD :『精神』（後半）（135 分+インタビュー）
4	1) 心のケアと現代社会 2) 精神看護学の目的/ 患者・看護師の感情体験 / ストレスと感情表出
5	DVD : 脳と心『果てしなき脳宇宙～無意識と創造性』 ～心の理解/無意識の理解 (59 分) 【感想文】
6	精神医療の歴史的変遷
7	精神保健医療福祉の法制度～精神保健福祉法・障害者総合支援法
8	1) 精神発達の考え方 DVD:脳と心『人はなぜ愛するか』 ～感情 (59 分)
9	1) 心の危機とストレス 2) 心のしくみと人格の発達・自我の防衛機制
10	思考・知覚の障害・認知行動療法 DVD:『看護師の役割と仕事』（23 分）
11	緊急事態に対処する《自殺・無断離院》 ～看護・スタッフのサポート
12	DVD :『シャイン』（前半）～心の病/家族間の愛情/心の葛藤
13	DVD :『シャイン』（後半）（115 分） 【感想文】
14	1) 看護師のイメージとは？/そのイメージに対する思い（GW） 2) 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス・リエゾン精神看護
15	振り返り/終講試験
履修上の要件	心理学において、人間の心理や行動について学び、自己・他者理解の基礎を理解していることが望ましい。
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座専門Ⅱ 精神看護の基礎① 精神看護の展開② 医学書院 国民衛星の動向 看護学生のための心理学 / PC、プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅰ（精神障害の理解）		平江 将樹/濱田 秀子		2年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義・GW	1（30）	2年生教室	前～後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	ストレスコーピング、コミュニケーション、メンタルヘルス、地域生活支援				
到達目標	精神看護の対象は全ての人々であり、人間の心の動き、健康、健康障害、ライフステージの視点から正しく理解する。また、現代社会における精神の問題を理解し、心の健康を保持・増進するための方法を理解する。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	現代における心の健康問題 1) 思春期・青年期における精神・心の発達について 2) 発達障害 DVD:『発達障害へのアプローチ』(45分)
2	思春期・青年期の心の健康問題 DVD:『スクールカウンセリング』(46分)
3	職場・社会における心の健康問題 ～ストレス・メンタルヘルス
4	精神科における身体合併症へのケア
5	緊急事態に対処する《暴力》・ディエスカレーション・アンガーマネジメント
6	地域生活支援サービス・制度 DVD:『精神障害者の地域生活支援』(31分)
7	地域生活支援サービス（SST）DVD:『認知行動療法、べてる式』
8	災害・心的外傷と精神看護
9	現代社会とアディクション（嗜癖・依存症）
10	対人援助のためのグループワーク ～村の宅配便（GW）
11	精神看護におけるコミュニケーション ～相対角度・空間距離など 傾聴技法 / 症状別の対応
12	DVD:『患者さんの強みを見つけ出すためのコミュニケーションスキル』(18分) 傾聴動画（52分/ネット配信）
13	プロセスレコードの目的・活用方法 ～プロセスレコード記録実践
14	プロセスレコード模擬検討会（GW） DVD:『薬物療法と看護の基本（ストレングスモデル、リカバリー）』(16分)
15	終講試験
履修上の要件	精神看護学概論を終了していること。
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座専門Ⅱ 精神看護の基礎① 精神看護の展開② 医学書院 PC、プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅱ (精神に障害のある患者の看護)		平江 将樹		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (15)	2 年生教室	後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	対人関係/観察の視点/急性期・回復期・慢性期の看護				
到達目標	「精神看護に共通する看護」として対人関係のもち方、観察の視点について学び、対象を理解する力を身につけることができる。 精神に障害のある対象の症状の現われ方、言動の特殊性について学び、看護者の対象に対する「関わり方」「看護」を理解することができる。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	精神疾患と看護の基礎知識 問題行動のある人の看護 ～不安・引きこもり・強迫行為・拒否
2	統合失調症 1) 統合失調症の理解
3	2) 看護（急性期・回復期・慢性期） / 家族支援 DVD:「ビューティフルマインド」(前半) (135 分) ～症状の理解、家族の思い、社会の理解
4	DVD:「ビューティフルマインド」(後半)
5	気分（感情）障害の理解と看護、家族支援 DVD:『認知行動療法』(48 分)
6	てんかん / パーソナリティ障害 森実恵氏手記「<心の病>をめぐりぬけて（統合失調症患者）」を読んで 【感想文】
7	向精神薬種類と主な副作用 / 病的多飲水・水中毒 行動制限における看護（隔離・拘束）
8	終講試験
履修上の要件	疾病と治療Ⅴ「精神」を終了していることが望ましい。
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座専門Ⅱ 精神看護の基礎① 精神看護の展開② 医学書院 看護実践のための根拠が分かる精神看護技術 メヂカルフレンド社 PC、プロジェクター
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅲ（看護過程の展開）		濱田 秀子		3 年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義・個人ワーク	1（15）	3 年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	ヘンダーソンモデル、観察・アセスメントの視点、セルフケア、対人関係				
到達目標	看護過程の展開を通して、精神障害のある患者の看護を理解することができる。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	〔講義〕 1）看護過程の展開の構成要素の再確認（復習） 精神看護における観察・アセスメントの視点 統合失調症、精神疾患患者の特性 2）事例紹介、個人ワークスタート、質疑応答
2	個人ワーク
3	個人ワーク
4	個人ワーク
5	個人ワーク
6	個人ワーク
7	個人ワーク
8	終講試験
履修上の要件	疾病と治療Ⅴ「精神」、精神看護学概論・精神看護学Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学「共通基本技術Ⅰ・Ⅱ」を終了していること
テキスト、教材、参考書	はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神看護過程 医歯薬出版（株） 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メヂカルフレンド社 関連資料配布
成績評価の方法	看護過程記録一式の提出
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学実習Ⅰ		糸 ふじ代 他		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2 (90)	県立大島病院	後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	リハビリテーション期にある患者の援助を通し、障害の適応また、日常生活の自立に向けた看護を学ぶ				
到達目標	1. 回復期にある患者の特徴と、回復期における看護の特徴が分かる。 2. 患者の健康障害と日常生活行動への影響が判断できる。 3. 日常生活行動の自立への援助、教育的支援が実施できる。 4. 患者がリハビリテーションに意欲的に取り組めるように援助できる。 5. 障害受容への心理的サポートができ、患者のメッセージを聴くことができる。 6. 社会復帰に向けて生活指導ができる。 7. 行った看護を評価できる。				
事前学習	運動器疾患患者の看護、脳神経疾患患者の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～15日目	1. 事前学習を提出する。 2. 受け持ち患者：回復期にありリハビリテーションが必要な患者 日常生活援助を必要とする患者 3. 実習の進め方 1) 1日目は学内にてオリエンテーションを行う。 2) ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。 3) 2週目にケースカンファレンスを実施 4) 1～2名の患者を受け持つ 5) 最終日は学内にてリフレクションおよび課題学習を行う
履修上の要件	成人看護学Ⅰ～Ⅴを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院 系統看護学講座別巻Ⅱ リハビリテーション看護
成績評価の方法	成人看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学実習Ⅱ		林 なおみ 他		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(90)	県立大島病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	成人期特有の健康障害で慢性に経過し生涯コントロールが必要な患者への援助を通して看護実践に必要な知識、技術、態度を学ぶ				
到達目標	1. 慢性期にある患者の特徴と、看護の特徴を理解する。 2. 疾病が患者の日常生活に与える影響が理解できる。 3. セルフケアに向けて生活行動の自立への援助、教育的支援が実施できる。 4. 障害受容への心理的サポートができ、患者のメッセージを聞くことができる。 5. 疾病の自己コントロールができるような教育的支援ができる。 6. 家族の訴えを受け止め、援助ができる。 7. 社会資源を理解し、必要時継続看護が実施できる。 8. 行った看護を評価できる。				
事前学習	循環器疾患患者・呼吸器疾患・内分泌疾患の看護 他				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～15日目	1. 事前学習を提出する。 2. 受け持ち患者：回復期にありリハビリテーションが必要な患者 日常生活援助を必要とする患者 3. 実習の進め方 1) 1日目は学内にてオリエンテーションを行う。 2) ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。 3) 2週目にケースカンファレンスを実施 4) 1～2名の患者を受け持つ 5) 最終日は学内にてリフレクションおよび課題学習を行う
履修上の要件	成人看護学Ⅰ～Ⅴを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院
成績評価の方法	成人看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学実習Ⅲ		池田 恵子 他		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2 (90)	県立大島病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	周手術期の患者の援助を通し、早期回復および生命維持に関する看護を学ぶ				
到達目標	1. 急性期における患者の身体的・精神的・社会的特徴が分かる。 2. 急性期における看護の特徴が理解できる。 3. 手術を受ける患者を理解し安全・安楽に手術を受けるための援助ができる。 4. 手術見学を通して、術後予測される身体的、精神的苦痛を理解できる。 5. 生命維持のための呼吸・循環管理、維持の現状が理解できる。 6. 早期回復のための術後患者の看護が理解でき実施できる。 7. 不安、苦痛を緩和するための援助の方法を学び、その一部を実施できる。 8. 社会復帰を目指す患者の援助ができる。 9. 家族への援助の必要性が理解できる。 10. 行った看護を評価できる。				
事前学習	周手術期の看護、消化器疾患患者の看護、運動器疾患患者の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～15 日目	1. 事前学習を提出する。 2. 受け持ち患者：回復期にありリハビリテーションが必要な患者 日常生活援助を必要とする患者 3. 実習の進め方 1) 1 日目は学内にてオリエンテーションを行う。 2) ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。 3) 2 週目にケースカンファレンスを実施 4) 1～2 名の患者を受け持つ 5) 可能な限り手術見学を行う 6) 最終日は学内にてリフレクションおよび課題学習を行う
履修上の要件	成人看護学Ⅰ～Ⅴを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 1～15 医学書院 系統看護学講座別巻 成人外科看護総論 医学書院
成績評価の方法	成人看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。

授業科目名		担当講師名	対象学年
老年看護学実習Ⅰ		脇田 真由美他	2 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	
実習	2 (90)	虹の丘・奄美佳南園・めぐみの園・住用の園・芦穂の里	
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	地域や施設で生活する高齢者について理解し、対象の特性にあった援助の基礎的知識・技術・態度について学ぶ。		
到達目標	1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を捉えることができる。 2. 高齢者の基本的な生活行動および一日の過ごし方を 3. 高齢者との人間関係を深めることができる。 4. 高齢者の健康障害・生活上の問題について理解し、日常生活援助ができる。 5. 高齢者の生活環境およびソーシャルサポートシステムについて理解する。 6. 高齢者の生き甲斐をふまえて、自己の老年観について考えることができる。		
事前学習	高齢者の身体・精神・社会的特徴 認知症のある高齢者への関わり 介護保険、老人保健、老人福祉法、介護老人保健施設・介護老人福祉施設の特徴、デイケア・ディサービス、施設での看護師の役割		

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～15 日目	1. 事前学習を提出する。 2. 実習の進め方 1) 老人施設実習では、実習 1～2 日目は受け持ち入所者を持たず、コミュニケーションをとりながら日常生活援助を中心に実習を行う。 2) 実習 3 日目から受け持ち入所者を 2 名受け持ち、看護計画を立案して、援助を実践する。 3) ディケア・ディサービス・支援センターで参加型の実習を行う。 4) ディケア・ディサービス・支援センターの概要や利用者の特徴などの説明を受け、その役割を理解する。
履修上の要件	老年看護学実習は、老年看護学Ⅰ、Ⅱを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座専門基礎分野 社会福祉 医学書院
成績評価の方法	老年看護学実習Ⅰ評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の評価
備考	新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。

授業科目名		担当講師名	対象学年
老年看護学実習Ⅱ		脇田 真由美他	2 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	
実習	2 (90)	大島郡医師会病院・国立療養所奄美和光園	
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	健康障害をもつ老年期の患者・家族を理解し、看護上の問題を計画・実施・評価することができる。		
到達目標	1. 老年期にある対象の健康障害の特性について理解し情報収集、計画立案ができる。 2. 老年期にある対象に適した態度を養うことができる。 3. 老年期にある対象の QOL を高めるための援助を実施できる。 4. 評価に基づいて看護計画を修正、変更できる。 5. 継続看護の視点から、保健医療福祉チームの一員として看護の役割が理解できる。 6. 老年者の QOL 向上を目指した看護援助を通して、自己の老年観を育むことができる。		
事前学習	老年看護学実習Ⅰの事前学習内容、摂食嚥下障害のある患者の看護、慢性心不全患者の看護、パーキンソン病患者の看護、ハンセン病後遺症（知覚障害、視覚障害）		

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～15日目	1. 事前学習を提出する。 2. 受け持ち患者：老年期にあり援助を要するニーズの高い患者 3. 実習の進め方 1) ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。 2) 2週目にケースカンファレンスを実施 3) 一人の患者を受け持つ
履修上の要件	老年看護学実習は、老年看護学Ⅰ、Ⅱを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座専門基礎分野 社会福祉 医学書院
成績評価の方法	老年看護学実習Ⅱ評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の評価
備考	新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。

授業科目名		担当講師名	対象学年		
小児看護学実習		田口 恵	2 年～3 年次		
授業形態	単位 (時間)	実習場所	学期	曜日	時限
実習	2 (9 0)	県立大島病院 小児科病棟 外来	前期	月～金	8 : 00
		小宿保育園 春日保育園 のぞみ園	後期		15 : 30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である				
学修内容	小児各期の特徴を理解し、健康の保持・増進及び健康上の問題を持つ個々の小児とその家族に対して必要な看護が実践できる基礎的知識、技術、態度を学ぶ				
到達目標	1. 小児各期における身体的・精神的・社会的な発達の特徴を理解できる 2. 健康な小児、健康を害している小児の日常生活を理解し、成長発達への援助方法を理解できる 3. 小児の健康障害の特徴を把握し、対象に応じた看護過程の展開ができる 4. 健康障害や入院生活が小児と家族に及ぼす影響を理解できる 5. 小児を取り巻く医療、保健、福祉の連携の中で小児看護の役割を考察する				
事前学習	小児の代表的な疾患 患児家族の看護、乳幼児の成長発達、バイタルサイン測定 乳児の身体計測 プレパレーション 転倒転落のアセスメント 学習や遊び等				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日(学内)	1. 学内実習施設オリエンテーション:実習施設、病棟の概要について バイタルサイン測定について(乳児期)、身体計測実施(モデル人形使用) 2. 最終日は学内にてリフレクションおよび課題学習を行う
2日間 小児科外来	1. 小児が受ける医療サービスの実際を学び、医療保健福祉の連携について学ぶ 2. 小児特有の診療の補助技術について学ぶ(安全安楽な技術)
4日～5日間 小児科病棟 NICU	1. 事前学習を提出する 2. 実習の進め方 1) 健康障害を持つ小児及び家族を理解し、家族を含めた看護援助について学ぶ 2) 患児を受け持ち必要な看護について、看護過程を展開し理解する 3) ケースカンファレンスを行い、看護援助について適切に検討する 4) ハイリスク新生児について学ぶ
保育所(3日間)	1. 健康な小児の成長・発達を理解し、望ましい保育について学ぶ
療育施設(2日間)	1. 障害児の成長・発達について理解を深め、保育者との関わりを学ぶ
履修上の要件	小児看護学概論、Ⅰ～Ⅲを修得していること
テキスト、教材、 参考書	領域別実習要項 系統看護学専門Ⅱ 小児看護学概論・臨床総論 医学書院 系統看護学専門Ⅱ 小児看護学臨床各論 医学書院
成績評価の方法	小児看護学実習 評価表に基づいて、出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。

授業科目名		担当講師名	対象学年
母性看護学実習		恵原 知恵	2 年～3 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	
実習	2 (90)	県立大島病院 産婦人科病棟・産婦人科外来	
実務経験	本科目は、助産師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	周産期における母子の特性を理解し、母性および新生児の看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。		
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥および新生児の特徴と正常な経過が理解できる。 2. 産褥および新生児の援助を体験し母性看護技術の特殊性が理解できる。 3. 受け持ち褥婦・新生児への健康課題を理解し、褥婦・新生児への援助・指導のあり方を学ぶ。 4. 母性看護を通して自己の母性観（父性観）を深めることができる。		
事前学習	妊娠期の看護、分娩期の看護、産褥期の看護、新生児の看護		

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～15日目	1. 事前学習を提出する。 2. 実習の進め方 1) 1～2週目は正常な経過をたどる分娩・産褥期の対象および新生児を受け持つ。 *男子学生は女子学生とペアを組み褥婦と新生児を受け持つ。 褥婦のケアや観察で実施できない場合もあるので、女子学生と情報を共有する。 2) 3週目は、機能別実習として外来（半日）実習や妊娠期の技術を見学および体験する。 3) 外来実習は1日1名、半日実習とする。 4) 分娩見学 ・産婦の許可をもらい1人1例実施する（女子のみ） ・男子学生は、産婦の許可をもらい帝王切開を見学する。
履修上の要件	母性看護学実習を履修するには、母性看護学Ⅰ～Ⅱを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学（2）母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ周産期各論（医歯薬出版） 病気がみえる vol 10 第3版
成績評価の方法	母性看護学実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学実習		濱田 秀子		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2 (90)	奄美病院	前・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	精神に障害のある対象について理解し、精神看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。				
到達目標	1. 精神科の治療環境・生活環境について理解できる。 2. 精神科医療の特徴が理解できる。 3. 対象の日常生活を観察し、精神障害が生活全般に与える影響について理解できる。 4. 精神に障害がある対象を理解できる。 5. 対象の日常生活行動を把握し、自立に向けて援助できる。 6. 対象が周囲の人々と交流が持てるよう援助する。 7. 行った援助を評価・振り返ることができる。 8. 対象との人間関係のあり方を通して自己の行動を振り返ることができる。				
事前学習	精神看護の目的と意義、精神保健医療福祉の法制度、 統合失調症／気分障害／てんかん／パーソナリティ障害 向精神薬の種類と主な副作用／多飲水／行動制限における看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目～15 日目	1. 課題を提示し、実習の事前学習を行う。 2. 実習内容 1) オリエンテーション 2) 受け持ち患者看護 1名の患者を受け持ち、ヘンダーソンの理論に基づいて看護過程を展開する。 3) 演習 ・プロセスレコードを活用し、対象との関わりを振り返る。 4) カンファレンス 5) 5 日目～9 日目のあいだに 1 日学内実習にてリフレクションを行う
履修上の要件	精神看護学実習は、精神看護学概論、精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 医歯薬出版 看護学生のための精神看護臨地実習 NOTE 中央法規
成績評価の方法	精神看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。